

会 議 記 録

高松市附属機関等の設置、運営等に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	令和7年度 第3回高松市地域部活動検討委員会
開 催 日 時	令和8年2月20日（金）10時00分～11時30分
開 催 場 所	高松市役所防災合同庁舎 3階 302会議室
議 題	1. 国の動向について（報告） 2. 今年度の実証事業について（報告） 3. 先進地視察について（報告） 4. 今後の取組について 5. その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上 記 理 由	
出 席 委 員	米村委員、北堀委員、宮脇委員、仁谷委員、三好委員、辻委員、大西委員、 近藤委員、西山委員、臼井委員
傍 聴 者	4人（定員9人）
担 当 課 及 び 連 絡 先	保健体育課 087-839-2657

会議の経過及び結果

会議の成立の報告、教育長挨拶、会議公開の確認の後以下の議題について協議した。

（1）国の動向について（報告）について

事務局から説明（資料P2、P3及び別添資料）

（1）についての質問

（委員長）

認定クラブの要件や認定クラブのメリット、教員の兼職兼業についても具体的に出ている。国が少し前に提案したもので早めに公開されたものなので、次の議題に移る。

（2）今年度の実証事業について

事務局から説明 運動部活動P4（軟式野球）、P5（男子バレーボール）、
文化部活動P6（吹奏楽：合同バンド）

（2）についての質問

（委員）

軟式野球のクラブの平日の活動時間は、16時から18時となっている。その学校に最も近い学校でも4kmから5kmほどはある。クラブの活動の中で、他校区の生徒も参加ができるということになっているが、多くの学校が15時40分か50分に帰りの会が終わって、そこから移動を考えると、16時からの活動に間に合わせることは難しいのではないかと。ナイター設備を使用させてほしいというのは当然の要望だと思う。17時から19時であれば可能だと思うが、制約になっているのはナイターの使用料等の施設面のことなのか、中学生の健全な育成で活動する時間帯としてはこれぐらいが適切という考えなのか。今、私のところに地域の方から「16時から18時の時間帯というのは厳しい」という声がたくさん届いている。また、「17時から19時だったら何とかかな」とか、「18時から20時だったらしっかり準備して臨める」という声も届いている。何が問題になっているのか教えていただきたい。

(事務局)

健全育成という概念は非常に大事なことだと思うが、開放事業との兼ね合いを考えながら検討していこうと思っている。

具体的には、高松市の実態に合わせたものを考えていかなければいけないと思っているが、概ね国の方向性を受けついでいきながらやっていこうと考えている。

(委員)

本当に難しい課題だが、今、私のところに届いている声とか手応えとしては、できるだけ柔軟に活動できるような環境や条件を整えることが、1つでも2つでもたくさん地域クラブが立ち上がっていくことに繋がっていくのではないかと。それが子どもたちの健全育成とどう繋がっていくのかという不安はぬぐえないが、できるだけ限り柔軟な対応をお願いしたい。

(委員)

保護者の方からたくさん声が上がってきている。前回から申し上げている通り、大きくは安心・安全、そして負担である。

その中で比較的多いのが、安心・安全面、つまり誰が教えて、誰がどう責任をとるのかということ。バレーボールの実証事業では、バレーボール部の顧問の先生が引き続き対応している。

先生の兼職兼業がOKということだが、どれぐらいの方が希望されているか。

また、先生は人事異動があるが、その点をどう考えているか、教えていただきたい。

(事務局)

兼職兼業を希望する教員の割合について、だいたい3割ぐらいだと捉えていただければと思う。

ただ、3割の中には、今までの部活動と同じような形では難しいという方もいる。何が難しいかということ、やはりその指導に見合った対価をもらえるのかとか、今まで週5日あった回数をもう少し少なくしてもらいたいということである。それらを含めて3割ぐらいだと捉えてもらったと思う。

これは高松市だけが多いとか少ないではなくて、全国的に見ても大体3割ぐらいが兼職兼業を希望している。

人事異動に関することについて、私たちが言っていることは、勤務校が変わって指導者がどんどん変わっていくとクラブの運営が持続可能なものではないのではないかと。今、在籍の学校にとらわれずに自分が本当にしたいところでもらうという形をとりたいと思っている。ある競技では教員がクラブを立ち上げて行っているが、本来は地域のスポーツ少年団とか地域のクラブが立ち上がり、地域の指導者が指導を行っているところに、在籍する生徒の学校の先生方で希望する人が関わっていく形を考えている。先生方が異動しても基本的なクラブと指導者は変わらずに、そこをサポートする先生が変わる。あくまでもサポート的な位置づけでとらえるとクラブが持続可能なものになるのではないかと話も出てきている。すごく難しいことであるとは思っている。

(委員)

実証事業で「合同バンド」を行っている。資料にもあるように、吹奏楽の場合であれば、指導者の問題と、楽器の問題と、場所の問題が非常に大きい。

検証の中で成果や課題が出てきていると思うが、資料を見てわかる通り、今回の「合同バンド」は土曜日の実施である。運動部の場合は平日も実施しているが、これが一気に平日も地域展開するようになった時に指導者が来ることは可能なのか。指導者が5名の中で専門の楽器に偏りがあったとい

う話があったが、吹奏楽もかなりの種類の楽器がある。それを今後、全ての学校に確保していける可能性があるのか。また、平日は誰が見るのか。他の部活動以上に教員の兼職兼業の協力がなければ、学校に吹奏楽が残っていく可能性がないのではないかと課題が大きく残っているのではないかと思う。

先程の話では、兼職兼業を希望する教員の割合は3割ということであったが、文化部は違った性質があると思っている。学校の中でいくつの文化部が残っていくのかはわからないが、文化部に所属している子どもたちの行き場をどう確保していくのかという非常に大きな問題が残っていると思う。

平日については不安な気がしている。土日であれば、現在もそれぞれの学校の要望に応じて、数名の一般の指導者が入っているのではないかと思っているので、土日であれば先生方への協力は可能であるが、平日は難しいのではないかと思っている。

(事務局)

御意見の通り、平日の吹奏楽の活動というのは大きな課題になっている。兼職兼業をかけていただく先生方も何名かは確保できそうかなと思っているが、全ての中学校に配置できるような数というのは課題となっている。その確保はこれからしていかなければならないと思っている。

文化部全体のことに関して言えば、今ある文化部活動だけではなく、今までにない他の文化活動に関していくつかの団体から連絡が入っている中で、新しい多様な活動を生徒が体験できるような機会を考えているところである。全ての学校にある全ての文化部が残るわけではないと考えている。中には活動の持続性の困難さからなくなっていくものもあると考えている。

(委員長)

平日の移行を見据えながらの検討が必要だと思うのだが、事務局の手ごたえとしては、土日の展開についてはある程度見通しが立っているという判断でいいか。

(事務局)

文化部に関しては、指導者の関係で土日、平日で移行は同じタイミングでと考えている。吹奏楽以外の団体によっては、「うちは土日しかしない」とか「うちは平日の何曜日だけする」とかあるかと思うので、土日からに限定せず、団体によって活動日は決まっていくかなと考えている。

運動部に関しても同じような話になるが、運動部の場合は、活動の時間をどれだけ柔軟に対応できるかということと、様々な活動の日数があるクラブが、どこまで協力していただけるかということが大切になってくる。全てのクラブが週5日ペースの活動だと、なかなか子どもたちも平日入るのが難しかったりするので、週1日、週2日ぐらいの活動を希望しているクラブなど、子どもが入れる環境が整っていければ、公募の手段や活動費用の課題などもあるが、休日だけでなく平日の対応につながると考えている。

(委員長)

活動の日数とか指導者、兼職兼業の教員等にどのように取り組んでいくのか、課題対策をお願いします。

それでは、議題(3)「先進地視察」について、事務局より説明をお願いします。

(3) 先進地視察について (報告) について

事務局から説明(先進地視察について(報告) P7~P10)

(3) についての質問

(委員)

国は、責任主体は市区町村や市区町村の教育委員会だと言っている。

高松市では、2月10日に、「高松市部活動地域展開庁内連絡会」というのを立ち上げている。この後説明していただけたらと思うが、神戸市や姫路市は、それぞれ責任主体はどういう体制組織なのか。市教委の中なのかそれとも首長部局と連携しているのか。具体的に、「〇〇課」とか「〇〇室」とか、そういう専従の職員が配置されている組織なのか。その人数等がわかれば説明してほしい。先ほど、神戸市は、1,000ものクラブの認定が大変だったと聞いたが、すでに改善できていることがあれば、それを教えていただきたい。

(事務局)

神戸市の方は、令和6年度が5名の専従の方、令和7年度が11名、来年度が14名で、教育委員会が責任の主体でやっていると聞いている。なぜかという、子どもたちの部活動ということもあるし、委員会が主体となることで、学校との連携が取りやすいという側面があるという話を聞いている。ただ、教育委員会だけではなく、あくまでも教育委員会の中に専従はいるが、関係各課とは綿密に連携を取りながらやっていると聞いている。姫路市の方は、今年度の担当が7名と聞いている。これも教育委員会の健康教育課の中に「姫カツ推進担当」ということで7名おり、その他に本来の業務を担っている係員がいる。

(委員)

生徒数で言うと、姫路市が13,000人で、高松市が11,000人ですが、それでも7名専従の方を置いているということですね。

神戸市は1,000を越えたクラブがあって、国はそのクラブの責任主体をコントロールしなさいと言っている。「ガイドラインの時間数を守っているか」「指導は適切か」「営利を目的としていないか」こういったことが認定の条件となっている。神戸市は、1,000ものクラブを10名ぐらいで認定作業を行っているが、神戸市もかなりの広域だと思うが、国は認定要件をたくさん提示して、これを確認していきなさいというが、そこには不安はないのか。1,000ものクラブをちゃんと認定要件を満たしているかどうかを見極めていくということに関しては、どういうふうな手続きをとっているのか。

(事務局)

認定の審査をする段階の前に、11名の足並みがそろるように、要件に対する共通理解を図るための会議を多く設けたそうである。クラブの認定申請を見ていきながら、「本当にやっているのか」、「適正な会計処理をされているのか」ということを、「どこまで求めていけるのか」、「どこまで把握できるか」というのがすごく不安だそうである。このことが、先が見えない不安にも繋がっているということと、やはりクラブ数が1,000というのは、部活動と同じ数になっているので、実際にやってみないとわからないと言っていた。

(委員)

姫路市は、認定クラブである「姫カツクラブ」が168で、「姫カツ連携活動」が200あるが、姫路市は「姫カツクラブ」は認定をしていくが、「姫カツ連携活動」については認定をせず登録のみということでもいいか。

この2つについて、財政的な施設使用とか、どんな差をつけたりしているのか。

(事務局)

私が聞いた話では「姫カツクラブ」には、中学校施設を使用してもらい、「姫カツ連携活動」は、基本的には市の施設とか民間施設を活用していただくということで、「姫カツクラブ」に支援をしている形である。「姫カツ連携活動」はあくまでも連携活動である。

(委員)

ということは「姫カツ連携活動」には、先ほど示した認定要件を課さないということか。

(事務局)

はい。

(委員)

どんな活動していてもかまわないのか。

(事務局)

ガイドラインの趣旨には沿ってもらいが、あくまでも独自運営で、部活動にない種目も可能であるなど、認定クラブに比べ規制は緩いようである。

(委員)

中学校の新生保護者説明会やPTAの連絡協議会（ブロックの幼少中で実施）の時に保護者から聞いたのは、やっぱり不安というところである。「新しいクラブに、子どもを預けていいのだろうか」、「学校の先生が見てくれるのであればある程度担保できていたけれども、新しいクラブの運営はどうなんだろうか」という不安である。

これについては「認定されたクラブになると思いますので」というふうに答えてはいるが、「認定を受けたからといって、正しく運営してもらえるのかどうかそれが心配だ。」「特に、いじめがあったとき、それは誰が対応してくれるのか。」「クラブを指導することは教育委員会がしてくれるのだろうが、生徒の指導は誰がするのか。」と不安に思われている。

当然、今までだったら、学校の教員なので、生徒指導をしてくれて、「いじめはこうだったからこうしましょう」みたいな対応をしてくれるのだけど、そこまでクラブの指導者たちがしてくれるのか。そこで、個人情報という新たな問題が発生していくのではないかとこのところ不安を感じている。

また、クラブに入るにあたって、例えば、「活動場所まで送り迎えしますよ」とマイクロバスを出す業者が出てきたり、「クラブがこの品物を指定していますのでこれを買ってください」みたいな金銭的なものが発生するかもしれない。

そういうことも、高松市が管理監督してくれるのかなというようなことを、不安がっていました。

だから、そういう不安がっている保護者に何らかの安心材料を与えてもらえたらいいと思う。

(委員長)

神戸市とか姫路市の方では、生徒指導的な側面とかは、どういうふうにとらえているのかは聞いたのか。

(事務局)

今回、そこまでは聞いていない。

(委員長)

教育的意義とか価値とかを引き継ぐという話でもあるし、生徒指導も絡んでくる可能性もあると思うので、そういうところも含めて調査いただきながら、情報収集していただきたい。

(事務局)

わかりました。

(委員)

「コベカツ」の基金について、年間5,000万円×20年と設定されている。5,000万円というのは、市の予算組みでされているのか。

(事務局)

当初予算で計上しているのではなく基金に10億円あり、20年間で5,000万ずつ使える計算で、その基金を使っていく計算をしているようである。

(委員)

ネットの情報では、「基金に積み立てる10億円などを盛り込んだ補正予算案を17日開会の神戸市議会定例会に提案、これが承認」と書かれている。

(委員長)

高松市もそのようなことが可能かどうかということも含めて、御確認いただければと思う。それでは、議題(4)「今後の取組」について、事務局より説明をお願いします。

(4) 今後の取組について

事務局から説明(今後の取組についてP11～P12)

(4) についての質問

(委員長)

今後の取り組みについて、このスケジュールで懸念されることや、想定しておいたほうがいいのかということ、或いは取り組みについての事例等のアイデアをいただければと思う。

(委員)

第2回の検討委員会後に、部活動地域展開の時期を判断、公表していただいた。また、全庁的な組織で向き合い、大きく進めていただいたことに感謝している。

これまで教員の善意で成り立っていた部活動を令和9年8月をもって、高松では一旦終え、新たな展開となることをありがたく思っている。

一方で、課題は山積している状況だと認識もしている。今後ともよろしくお願ひしたい。

11ページにあるように、高松市部活動地域展開庁内連絡会において、たくさんの関係各課が協力していただけるということは、ありがたいと思っている。先ほど、神戸市と姫路市においては責任主体は市教育委員会の中にあるが、関係各課に相談しながらということであったが、高松市としては、全庁的な組織としてこの連絡会がさらに発展成長していくようなイメージなのか、それともその責任主体としては、市教育委員会の中であって、必要に応じて、スポーツ振興課とか文化芸術振興課とか協働コミュニティ推進課の担当の方々がお手伝いするようなイメージなのかということ、教えてもらいたい。

(事務局)

部活動の地域展開については、開始までは教育委員会の方で進めていく予定である。庁内連絡会については、あくまで連絡会なのでそこが何かになるという形では考えておらず、地域展開の課題や情報、課題の把握等、いろいろとあると思うので、課題の範囲とか情報、意見の交換に関することや、地域クラブ活動の推進とか支援体制の構築に関することを連絡会で話し合えたらと思っている。

構成としては、外局を除く全部局の関係課の課長級の42名で構成されている。

座長が、学校教育課、保健体育課を所管する教育局次長、副座長に生涯学習課を所管する教育局次長及び文化観光スポーツ部長になっていただいて、主に、場所の関係や交通移動に関するような課に入っていたり、あとは新たな活動というのが考えられるということで、関係がありそうな課にお声掛けして、42名で構成されている。

(委員)

高松市と同じぐらいの生徒数の姫路市が、先ほどの事務局の話では7名程度の専従の方がいると聞いた。

高松市の地域クラブの展開がスムーズにうまくいくには、責任主体の組織が人数も予算もしっかりかけて、力強い組織であることが最大のポイントだと思っている。

募集や連携を含めて校長会として、お願いしていきたいと思っている。よろしくお願ひしたい。

今、私は校長会の立場にあるとともに、競技の方ではサッカーの部会長をしている。自分の勤務する学校でも、地域の方から地域クラブに協力したいという声の中で、学校という地域の中で地域クラブを作っていこうというところと、サッカーの方でも、副部会長の教頭先生等がサッカー協会にも働きかけてくれ、協会とも連携しながら競技団体の中でも地域クラブを立ち上げようという動きがある。私は縦と横とっていて、縦が校長も含めたそれぞれの学校の役割、横が各競技団体、競技連盟の役割、それぞれが1年半後に向けてできることをやっていくと、重なるところも出てくるかもしれないが、その状態はうれしい悲鳴だと思う。

各競技や吹奏楽連盟、文化的なものも含めて、その各競技連盟、団体等との連携を今後どういう見通しをされているのか教えていただきたい。

(事務局)

教育委員会としても、縦と横の関係性は非常に大事だと考えていて、学校でご尽力いただいたり、協会等と繋がっていただいたりしているということは本当にありがたい。市としても、協会との連携をとれるように、県スポーツ協会、市スポーツ協会のいろいろな会議に参加させていただき、話をさせていただく時間の中で、地域展開の説明や、教育というところを話している。今後は、スポーツ協会の数人集まる会からもう少し広げていき、多くの方と連携をとれるようにしていきたい。なお、競技に精通しているコーディネーターもいらっしゃるので、コーディネーターの方にも競技団体とか協会の方に足を運んでいただいて、いろいろ連携をとっていただこうと考えている。

(委員)

今、事務局から話があったが、2月に高松市内の4専門、例えば旧高松市体育協会、これは今、競技スポーツ専門部と申しますが、それらの会合や、昨日、コミュニティスポーツ専門部、46地区体育協会の会長のところに事務局の方が来ていただいて、本当に丁寧に説明をしていただいた。逆にたくさん質問も出てくるが、3月にまた更に拡大した理事会があるので、そちらの方にも説明に来ていただき、多くの情報を提供していただけるような機会をとっていきたいというふうに考えている。

その中で、先ほどからたくさんの議論があるが、地域の方でもいろいろな課題が山積してきていることである。以前はこのことについては、「地域移行」という言葉だったが、今は「地域展開」になっている。

従って、その地域の方がどのようにするか、学校だけではなくて、地域の方でもどのようにするかということが大きな課題になっている。

例えば文化部の活動が学校の中でしていたものが、コミュニティセンターを利用して地域の方と一緒に指導もしていただきながら活動を進めるとか、「今学校の先生の指導では困っているんだ」と、新しい指導者ができたら、大変興味が深まる。技術指導だけではなく、生徒指導も含めて、教育委員会と高松市スポーツ協会も抱えている指導者の資質向上のために、一緒になって研修会をやっていかなければならないというようなことも考えている。

高松市スポーツ協会の中では、来週、新たな委員会を設置したいと考えている。

40 数年前に水泳競技について、学校では練習してなくて、スイミングスクールの方が指導していて、「〇〇中学校の部員だけれども、練習は学校でやっていない」ということで非常に不安感を持っていた。

今では、学校で練習はしていないがスイミングスクールで練習をしているのは、当たり前になってきている。

そういう成功例もあるので、たくさんの課題が山積しているが、多くの方の御意見を踏襲しながら、事務局を中心に、今後も協力をしていきたいと考えている。

「大変前進したな」という大きな称賛の声も上がっているということ伝えておくので、今後もよろしくお願ひしたい。

(委員)

子どもたちの地域展開に向けて、ここまで進めていただき感謝申し上げます。今後の子どもたちの活動について、現在進んでいるところだが、前回の四国中体連の会議に出た時に、全中大会がこれからは残るということで、令和9年度から全中大会がなくなる9競技に関しても、四国総体では大会を行おうというような話が出ているところである。まだ結論は出ていないが、中体連は運営の立場として、この令和9年9月以降、新人大会があるが、高松地区で県大会に出場するのが何チームという制約もあるので、県中体連とも相談しながら検討していかなければいけないと思っている。また、市教育委員会とも連携しながら進めていくとともに、今後とも中体連の相談役としてお導きいただきたい。

これからもいろいろと相談させていただくとお願ひしますが、よろしくお願ひしたい。

(委員長)

大会運営について、ぜひ、連携しながら、子どもたちのためになるようにしていただきたい。

(委員)

総合型スポーツクラブや地域のクラブ、スポーツ少年団という、立ち位置側の者として、移行が進んでいることは、すごくありがたいと思っている。地域のクラブとして、一番大事な「指導者」「活動場所」「資金面」という3つを、まずしっかりと作っていくことを考えている。

そのためには、県や市の協力をいただきながら、活動していけるようなクラブにしたいということと、当初から他の委員の方が言われていた「安心・安全」や、「クラブのそれぞれの理念」、あと「関わってくれる方々」の中には、これに見合う謝金が出る指導者はもちろん、ボランティア的に協力していただく人も、必ず必要だと思っている。

そういう方々に対しても、お金じゃない部分、子どもと関わって自分たちも指導者も、生きがいとかやりがいを感じてくれるような、場所を作っていけたらと思っている。

ぜひ、総合型地域クラブとかスポーツ少年団とかが、そういう形で受け皿としてしっかりと協力してやっていけたらと思っている。

(委員長)

ノウハウ等もあると思うので、ぜひそれを生かしながら、協力いただければと思う。

(委員)

時間的に非常にタイトだが、スポーツ少年団としても指導者を結構抱えているので、ぜひ部活動にも関わられるようにしたい。また、このスケジュールに間に合うように、一生懸命頑張っていきたいので、御協力をよろしくお願ひしたい。

(委員長)

スポーツ少年団も連携ということで、小学生とかジュニアが中学校で地域展開するということは、大きな影響があると思うので、また御報告をお願いしたい。

(委員)

小学校では、令和9年9月から、部活動が地域展開されるということについて、子どもたちは「ああそうなんだ」と、受け入れていくというような方向で、今の6年生は「中学校行ったら何部に入りたい」というような話をしていますが、そういう話もだんだんなくなっていくのかなというふうに思っている。一方で、保護者も子どもたちも、部活動が中学校からなくなるということについての不安感というのを、あちらこちらで聞くことがある。

一つの居場所であったものがなくなっていくということで、地域展開されていくわけだが、このスケジュールにもあるように、どこかで保護者や子ども、あるいは市民等へ発信するような物、あるいは周知の時期を明確にさせていただき、一般の保護者や子どもたちにとっては、何がどう進んでいるのか全く分かっていない状況なので、こういった先ほどの実証事業の事例等の発信を心がけていただき、現場の子どもたちや保護者の不安解消に努めていただきたいと思います。

(委員長)

受益者となる小学生と保護者に対する情報発信は大切だと思うし、また協力いただく地域の方がかなり具体的に進んでいますので、そういうところへの情報提供も考えていただければと思う。

(委員)

本日はいろんなキーワードが出てきた。まずは「力強い責任主体」、そして「根拠ある予算確保」、また「人材確保及び育成」、また「地域の連携」があったが、今いろいろな団体、スポーツ少年団もそうだが、それぞれが、独自に考えたり、議論したり調整したりしている。実は私の地域でも、私を中心に広報している。

これからいろいろな団体で、或いは、校長会もそうかもしれないが、話がゆっくり静かに水面下で進んでいくと思っている。その時に交通整理とか情報の一元化が、どこかで必要になってくると思うので、調整していただければと思う。

(委員)

神戸市のことでとても参考になったが、一方で、神戸市でも地域によって状況がかなり違うという報道もある。

神戸市北区の山間部の学校では、17校ある学校の全てで吹奏楽部が成り立っていない。地域がこれではいけないということで、3つぐらいが吹奏楽クラブの立ち上げに動いているというようなことも報道で見た。

しかしその間、中学生の学校生活は3年間しかないので、今、その子たちはどうしているのかなと思っている。

県内でも、中学校3つの東かがわ市とか、中学校2つの善通寺市が、すでに動いている。

ただ、香川県の中学生の過半数が高松市の中学生である。高松市は22校の中学校があって、生徒数が1学年10人をきる山間部や島の学校もあれば、生徒数が1学年300人を超える学校もある。あるいは、周辺の学校との距離が近い学校もあれば遠い学校もある。

そういった22校の中学生を本当に「つながる、ひろがる、かなえる」というところに持ついくためには、よほどの知恵とお金と人と物が必要だなというふうに思っている。

また各地域の状況や学校の状況も違う。そういった、地域やそれぞれの思いを柔軟に対応していただけるような、そんな、責任ある運営主体を作っていただきたい。

(委員長)

クラブの認定の要件等々、柔軟に或いは適宜検討を行う必要があるだろうし、安心・安全といった指導者管理がおそらく重要になってくると思う。それを支える行政の関係各課の調整や費用面の要望もあったので、ぜひその辺を検討いただきながら、よりよい部活動の地域展開ができるように、さらに協議等々進めていただければと思う。

これで本日の議題は以上で全て終了となる。

(事務局)

協議いただいた内容を、今後の地域展開に向けた取組みに生かしていきたい。生徒も大人も満足できるためには課題が山積しているのので、課題解決しながらスムーズな地域展開ができればと思っている。

(閉会)